

## 2014年日本心血管脳卒中学会第1回役員会議事録

1, 日時 2014年6月5日(木) 16:30-17:30

2, 場所 ブラッサリーオザミ

東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ30階

3, 出席者(50音順)

運営委員:伊莉裕二、池田隆徳、小笠原邦昭、峰松一夫(委員長)、宮本 享、森野禎浩

会長、会長指名者:兵頭明夫、永廣信治

庶務会計、事務局:坂井信幸、豊田一則、徳永 梓

オブザーバー:鈴木謙介、菅原智美(獨協医科大学越谷病院)、里見淳一郎(徳島大学)

(欠席) 運営委員:岡田 靖、監事:根本 繁、山田和雄

4, 議題(一部敬称略)

議長(峰松一夫)は、出席者を確認し、議事録署名人に、峰松一夫(議長)と伊莉裕二を指名した。

(1) 開会あいさつ(峰松一夫)

昨年6月に日本頸部脳血管治療学会から日本心血管脳卒中学会に移行したが、資金移動、名簿整備、学術評議員委嘱などの実務がようやく一段落した。明日から第1回学術集会が開催されるが、本学会の目標である、心臓血管と脳血管の専門家が一同に会して脳卒中の治療を議論する場として発展させたい。

(2) 2013年度決算について

日本頸部脳血管治療学会の最終報告(資料1)と引き継いだ資産(繰越金)を組み込んだ2013年度決算、根本 繁監事、山田和雄監事の承認を得たことを坂井信幸(庶務会計幹事)が報告し、運営委員会の承認を得た。

(3) 2014年度決算について

2013年度決算に基づいて作成した2014年度予算案を坂井信幸(庶務会計幹事)が説明した。学術集会準備金は200万円で据え置くこと、会員のほぼ全員が年会費を納入する前提となっており、徐々に繰越資金が減少する見込みであるが、本会の目的と規模から適正なレベルに近づいているという意見が出て、原案通り承認された。

(4) 次々々期会長について

峰松一夫(運営委員長)から次々々期会長(第4回学術集会を主宰)に飯原弘二(九州大学脳神経外科教授)先生が推薦され、満場一致で推挙することになった。会員総会で承認されて正式指名となる。

(5) 利益相反規定について

利益相反委員会(岡田靖委員長)がまとめた規則(案)を坂井信幸(庶務会計幹事)が説明した。日本医学会の指針改定に基づいて開示対象期間を3年とすること、本学会はCOIマネジメントを行わず正会員は所属する基本領域学会に申告する、学術集会発表時の開示基準は日本脳神経外科学会の基準に準ずる、準会員にも同様の基準で開示を求める、などを確認し修正案を採択した。

(6) 学術評議員について

127名が学術評議員への就任を受諾している。第1回学術集会および第2回の準備の中で、新たなメンバーを募っていくことになった。

(7) 第1回学術集会について

兵頭明夫会長(獨協医科大学越谷病院脳神経外科)から、テーマ「多角的視点から診る脳卒中」に沿ったプログラムを組んだこと、第37回日本バイオレオロジー学会年会を一部併催していることが報告された。

(8) 第2回学術集会について

永廣信治次期会長(徳島大学脳神経外科)から、会期:2015年6月12日(金)-13日(土)、会場:ホテルクレメント徳島、テーマは「心脳善用、自他共栄」とすることが説明された。

(9) 第3回学術集会について

池田隆徳次々々期会長(東邦大学循環器内科)から、会期:2016年6月17日(金)-18日(土)、会場:東京コンファレンスセンター品川、第1回、第2回の内容を参考に準備することが説明された。

(10) 本会の運営について

-1 学術集会事務局が、学会参加によるクレジット獲得の業務を担当することを申し合わせた。

・日本脳神経外科学会のクレジットを取得できること、日本脳神経外科学会に依頼すると登録システムと業務の補助を受けることができる。

・日本脳卒中学会に日本頸部脳血管治療学会からの名称変更であることを通知した。申告は各自が行う

システムで、学術集会事務局、学会事務局の業務はない。

-2 留学等による休会は、1年単位で認めその間の年会費は免除することとなった。

以上この議事録が正確であることを証します。

2014年6月5日

議長： 峰松 一夫

峰松 一夫 印

議事録署名人：伊莉 裕二

伊莉 裕二 印